

## 令和元年度農学部特別研究費研究経過報告書

1. 研究者名 松沼 瑞樹
2. 研究課題名 スズキ目オニハタ科魚類の分類学的研究
3. 研究目的・内容

インド・太平洋に分布するオニハタ科オニハタ属はオニハタ *Centrogenys vaigiensis* のみを含む単型科・単型属（科と属が1種のみで構成される）と考えられてきた。しかし、2018年3月にオーストラリア連邦科学産業研究機構で魚類標本の調査を実施したところ、少なくともオーストラリア東部の珊瑚海に生息するオニハタに形態的に明確に区別できる2型を認めた。そこで本研究ではオニハタ科の種レベルの分類学的再検討を行い、正確には何種が含まれ、どのような形態的特徴をもつのか、各種に適用すべき学名は何かを明らかにすることを目的とした。

### 4. 研究の経過

国内外の研究機関（スミソニアン自然史博物館、カルフォルニア科学アカデミー、ビショップ博物館、オーストラリア博物館、オーストラリア連邦科学産業研究機構、クイーンズランド博物館、国立科学博物館、鹿児島大学総合研究博物館、三重大学、神奈川県立生命の星・地球博物館、京都大学総合、沖縄美ら島財団総合研究センター）から計116個体の標本を借用した。これらの標本について、73項目の計数・計測形質を精査した結果、次の3種に分類された。

*Centrogenys* sp. 1は、インド洋およびインドネシアから日本を含める北半球の広い範囲から得られており、背鰭棘数が通常14で背鰭棘条部の鰭膜に鱗が無いことで同属の他2種と容易に識別される。*Centrogenys* sp. 2は、オーストラリアの東西と北岸から得られており、背鰭棘数が通常13で背鰭棘条部の鰭膜が被鱗することで特徴づけられる。*Centrogenys* sp. 3はオーストラリア東部の珊瑚海からのみ確認されており、同所的に分布する*Centrogenys* sp. 2とよく似るが、背鰭棘数が通常14（sp. 2では13）、有孔側線鱗数が31-34（sp. 2では40-43）であることなどで識別される。

オニハタ属に帰属する名義種の原記載を調査した結果、インドネシアのワイゲオ島がタイプ産地の*Scorpaena vaigiensis* Quoy and Gaimard, 1824は、*Centrogenys* sp. 1とよく一致した。また、*S. vaigiensis*の新参シノニムとされてきた*Sebastes stoliczkae* Day, 1875（タイプ産地はベンガル湾のニコバル諸島）も形態的特徴が*Centrogenys* sp. 1と一致した。したがって、*Centrogenys* sp. 1の学名は*C. vaigiensis*となる可能性が高い。一方、*Centrogenys* sp. 2と*Centrogenys* sp. 3は、該当する名義種がないため未記載種である可能性が高いため、新種として記載する必要がある。

### 5. 本研究と関連した今後の研究計画

上記の研究経過は、2019年度日本魚類学会で学会発表を行った（ポスター発表）。本研究の最終的な成果は、学術論文として発表予定である。本研究を論文として発表するためには、フランス国立自然史博物館に所蔵されている*Centrogenys vaigiensis*のホロタイプ（学名の基準となる標本）を調査する必要がある。